

近江八幡市における家庭教育支援の取組

■家庭教育を取り巻く現状

経済的困窮、父母の就労形態の多様化、核家族化、地域コミュニティの希薄さなど家庭教育をとりまく環境は大きく変化し、子育てのしにくさ、家庭での親子で過ごす時間の減少に拍車をかけている。また、行き渋りや不登校など子育てに関して様々なしんどさを抱え込んでいる家庭が増えている。

このような状況を踏まえ、家庭教育支援のねらいとして家庭の孤立化防止、子育ての悩みや不安の抱え込みの緩和、親同士のつながりを確保し、保護者の悩みや不安に寄り添うことで、一人で抱え込まず、保護者が子育てに対して前向きになれることをねらいとして、本事業を実施している。

しかし、行動力のある保護者は子育てサロンにも積極的に参加して子育てに関する情報を提供することができるが、困り感や不安を抱え、本当に子育てにおける支援を必要としている保護者に必要な情報が届いていない現状があるため、自ら子育てに必要な情報を入手しにくい保護者へのアプローチについて検討していく必要がある。また、福祉部局や子育ての関係機関との連携が不可欠となる深刻な場合もある。本市における家庭教育支援をととして保護者の悩みや不安に寄り添い、一人で抱え込まず、子育てに対して前向きになれることをねらいとしている。

■家庭教育支援で目指す姿(課題解決のために)

小学校、地域での子どもや保護者の様子を共有した家庭支援チームが、気軽に相談や話を聞く場をつくり、保護者支援の一助となるようにする。子育てサロンや学校行事等をととして「顔見知りになる」「ちょっと話せる」といった『つながり』をつくり、保護者の情緒的な安定を図り、少しでも子育ての不安解消につなげる。



【 市子育てサロンの様子 】

■本年度の活動

(1)市内 12 小学校における各家庭支援チームによる活動の展開

- ・家庭教育支援チームでの困り感を抱える家庭に関するケース会議
- ・保護者支援活動(子育てサロン・登校支援・地域での居場所づくり)

(2)市子育てサロンの実施と家庭教育支援員の交流

- ・市内就学前・小学校の保護者対象の子育てサロンの実施(年5回)
- ・家庭教育支援員の連絡会・実践交流会の開催(年間6回)

(3)家庭教育推進協議会における協議(9月と2月)

- ・「家庭教育力向上のための取組の充実について」
- ・「困り感を抱える保護者へのつながりのある支援体制について」



【 家庭教育支援員連絡会の様子 】

■訪問型家庭教育支援の実践内容

- ・不登校や行き渋りで困り感を抱える保護者宅への家庭訪問、児童の登校支援
- ・地域の施設を使った学習会や親子で楽しめるイベント企画など、子ども・保護者の居場所づくり

■本年度の成果

家庭教育支援員連絡会にて、各校での取組の情報共有やスキルアップにつながる協議を実施することができた。また、各校の家庭教育支援チームによる子育てサロンについて、情報交換をしながら、内容を工夫して実施することができた。

■今後の課題

- ・家庭教育支援員の出勤可能時数にに応じた活動内容の精選・検討が必要である。
- ・取組活動充実のため、事務局と各学校(学校管理職・教職員・支援チーム)での実践事例共有をしながら、本事業で目指す支援について広めるとともに、支援を必要とする保護者と学校のニーズに応えられるよう、家庭教育支援員へのエンパワメントを行いつつ、事務局と学校とが家庭教育支援において連携を密にする必要がある。

報告書記入者(生涯学習課担当者)

親同士のコミュニティやつながりから、子育てへの安心感を促す家庭教育支援を目指して

近江八幡市	本事業開始年度 平成 21 年度
活動内容 ■ 地域人材の養成 ■ 家庭教育支援体制の構築 ■ 家庭教育を支援する取組 ■ 訪問型家庭教育支援活動の実施	
年間活動日数(のべ)	(909 日)

家庭教育支援員や支援チームに関すること
A:家庭教育支援チーム数 (12)チーム
B:家庭教育支援員数 (13)人
C:家庭教育支援チームや家庭教育支援員の配置場所数 (12)か所
D:前項(C)の配置場所名 (八幡小学校、島小学校、沖島小学校、金田小学校、岡山小学校、桐原小学校、桐原東小学校、北里小学校、馬淵小学校、武佐小学校、安土小学校、老蘇小学校)

■ 活動の具体的内容

○訪問型家庭教育支援の実践等

- ・不登校の児童がいる家庭や、家庭教育支援チーム会議であがった気になる家庭等に訪問し、登校を促したり、保護者の相談役になったりしている。地域で、保護者と子どもの居場所・イベントを設け、つながり作りを実施している学校もある。

○地域人材の養成等

- ・地域人材の発掘や、各種行事への協力・参画依頼、民生委員などの地域各団体との連携をお願いしている。次世代の家庭教育支援員養成が課題である学校もある。

○家庭教育支援チームの設置、実践等

- ・不登校や行き渋りを含め支援が必要な児童の家庭について、地域での状況も把握するため、校長、教頭、教育相談担当、生徒指導担当、養護教諭等でチーム会議を持っている。学校や状況によっては、虐待防止担当や、スクールソーシャルワーカー、学童クラブ指導員、地域の民生委員や児童委員も構成員に入れて会議を開催し、情報共有と家庭への支援方法を探っている。

○学習講座・行事の実施等

- ・各学校と市で「子育てサロン」を開催し、保護者が子育てについて気軽に話せる機会を設定している。外部講師を招き、専門的な話を聞く講座も実施している。各学校のサロンは、家庭教育支援員が中心となって内容や講師をコーディネートしている。

○連絡会議・ケース会議の設置、運営等

- ・各学校の家庭教育支援チーム会議において、学校と地域が情報共有し保護者支援や日々の児童理解や指導にいかしている。教員間の情報共有の場に家庭教育支援員も参加してもらう学校や、長期休業前に困り感を抱える家庭や気になる児童をピックアップし、地域での見守りや支援につなげている学校もある。

- ・より深刻なケースは関係機関と連携し、訪問教育相談員や SSW、福祉のケース検討会等へつなげている。

○保護者に対する情報提供等

- ・各種講座や子育てサロンの案内を配布し、子育てについて話せる場を提供していることを周知している。子育てサロンにおいては、保護者同士の情報共有の場や、SSW など専門的な方から話を聞ける場を設け、子育てに関する情報提供の機会の充実を図っている。LGBTQ など今日的な課題について学ぶ講座を設けている学校もあった。

■ 実施に当たっての工夫

- 各校での子育てサロンでは、参加数が増え、より多くの家庭に支援が届けられるよう、開催日の工夫(学習参観日など、学校行事等がある日に行う)や、内容の工夫(料理など楽しい活動を取り入れる・校長室で校長もサロンに入る)などがされている。また、日頃から保護者と家庭教育支援員のつながりを作れるように、登校時・学校図書館開放日・古本譲渡会等、保護者が学校に来る際に声掛けを行う工夫もされている。市の子育てサロンは、保護者のニーズに応じた内容や講師の招聘を行い、特に、今年度は給食センター・食育と連携した「ランチ・オン・サロン」を実施したところ、大変多くの方に参加していただけた。

- 家庭教育支援員連絡会では、日々の活動の交流や情報共有とともに、支援員のスキルアップをねらいとした事例検討会を開催した。県で行われたファシリテーター講座の内容を伝達する機会も持った。

■ 事業の成果

- 子育てサロンでは実施日や内容を工夫し、不登校や行き渋り等も含めた子育ての悩みや不安について話せる場の提供を行い、学校や保護者のニーズにそった取組を実施することができた。

- 家庭教育支援員と学校管理職、担任や養護教諭等で情報共有を定期的に行うことで、子育ての悩みをもつ保護者の人間関係や児童との関わり方など具体的な家庭教育支援につなげることができた。

■ 事業実施上の課題

- 家庭教育支援員の勤務可能時数が、各校の希望する時数に足りていない。活動内容の精選・検討が必要である。

- 家庭教育支援員が多忙で日程調整が難しかった学校や、高齢化で次世代の家庭教育支援員の育成が必要である学校もある。

- 子育てサロンを含め、保護者の学校行事への参加が少ない。好事例の共有や、ニーズに合った内容の検討が必要である。

- 訪問型家庭教育支援の充実に向けて、家庭訪問が支援員にとってハードルが高いと感じる課題を含め、検討が必要である。



【 子育てサロンの様子 】



【 学校での子育てサロンの様子 】

報告書記入者(生涯学習課担当者)